

平成27年度行政評価 施策評価シート（平成26年度実績）

施策名 歴史文化の保存継承と情報発信

		施策コード	020302
1. 施策の担当			
主管課	教育部 教育総務課		
関係課			

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第2章 歴史・文化を大切に、ひとを豊かに育むまちづくり（教育・文化）	節 第3節 歴史・文化
	施策	歴史文化の保存継承と情報発信	

基本方針			
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史館いずみさののより一層の活用を図ることにより、市民が地域の歴史や文化に誇りと愛着を持てるよう市内外にその魅力を発信します。 ・日根荘や佐野町場などの魅力的な歴史的資源を市民と共に積極的に保存、活用し、魅力ある街づくりに役立てます。 ・歴史資料や郷土資料などの保存とともに、公開を進めます。 			

現況と課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・日根荘を中心とした中世荘園のテーマ館として歴史館いずみさのを運営しています。また、今後、この施設の機能を充実させるとともに、泉州地域を中心とした歴史や文化についての各種資料の収集、保存及び活用に努める必要があります。更に、市民の歴史や文化についての学習ニーズに応える必要があります。 ・市内には、数多くの歴史的資源が存在しており、その資源を活用し、市民と協働して魅力あるまちづくりに役立てる必要があります。 ・新修泉佐野市史の編さん過程で歴史、郷土資料を収集しましたが、今後活用する必要があります。 ・小学校、中学校の歴史教育や地域教育について、児童及び生徒がより具体的な教材を活用して学習を進めることができるよう、より効果的な各種の資料を提供し、学校教育との連携を図る必要があります。 			

施策目標			
対象（誰を、何を、どこを）			
市民			
意図（どのような状態にしたいのか）			
歴史文化遺産を市民共通の財産として継承・発展していくことで、市の魅力向上・活性化を図ります。			

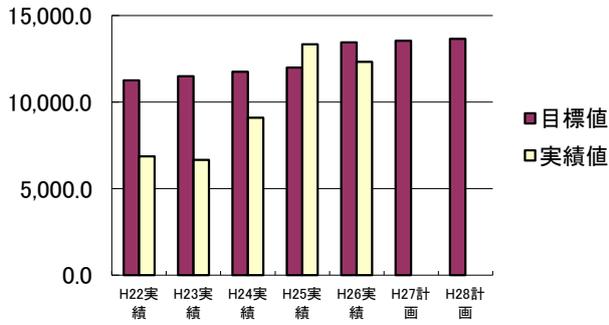
3. 市民ニーズ							
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
満足度（偏差値）			60.0				
重要度（偏差値）			43.1				

4. 施策にかかるコスト								
		単位	H25決算	H26決算				
コストの内訳	人件費	千円	31,361	32,115				
	事業費		4,357	4,600				
	フルコスト		35,718	36,715				
財源内訳	国庫支出金	千円						
	府支出金							
	市債							
	その他		429	674				
	一般財源1（＝フルコスト－特定財源）		35,289	36,041				
一般財源2（＝直接事業費－特定財源）	3,928	3,926						

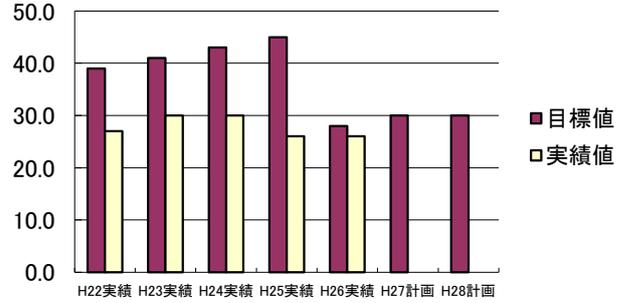
5. 施策の成果指標							
① 成果指標 1		歴史館いずみさのの年間利用者数					
項目	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28計画
目標値	11,250.0	11,500.0	11,750.0	12,000.0	13,446.0	13,546.0	13,646.0
実績値	6,857.0	6,659.0	9,104.0	13,346.0	12,320.0		
達成度	60.95	57.9	77.48	111.21	91.62		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景		
歴史的文化事業の推進の中心的役割を担う歴史館いずみさのの入館者数を把握することで、市民の歴史文化に関するニーズに対して情報発信ができていくかどうかの指標となる（常設展入場者+特別展・企画展入場者+特別展示入場者+普及啓発事業参加者）。		歴史館では平成25年度より入館料を無料とした。その関係で平成25年度は、大幅な利用者の増加となった（146%の増加）。そのため、平成25年度の数字を新たな基準値として、そこから年間100人ずつ増加することを目標としたため。			入館料を無料化した平成25年度は大幅な増加をみた（9104人→13346人）が、無料化による利用者が一巡したことにより、減少したとみられる。常設展は開館以来17年が経過しているが、リニューアルが行われておらず、今以上のリピーターの確保が難しいという課題を残す。映像資料については、DVDなどへの更新を徐々に進めてはいるものの充分ではない。また特別展・企画展については、限られた予算のなかで、魅力ある展示資料の借用などができず、館蔵資料を最大限活用してはいるものの、企画の範囲が狭くなってしまいうという問題点がある。		

② 成果指標 2		歴史館活動協力員（ボランティア）の総登録者数					
項目	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28計画
目標値	39.0	41.0	43.0	45.0	28.0	30.0	30.0
実績値	27.0	30.0	30.0	26.0	26.0		
達成度	69.23	73.17	69.76	57.77	92.85		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
歴史館活動協力員は、歴史館の様々な活動について、協力を行うボランティア組織。ここへの登録者は、歴史や文化に対して、深い知的欲求や関心を持っていると考えられるので、これを把握することによって、市民の歴史や文化に関するニーズの深まりの指標となる。		平成25年度にボランティアの登録名簿を整理したところ、26人となった。そのため平成25年度の26人を新たな基準値とし、毎年2人づつの増加を目標とした。		ボランティア登録数は26人と、平成25年度と同数だが、メンバーの入れ替わりはある。今後は、大学教育の中でボランティア活動が位置づけられる方向性などもあり、期待している。			
③ 成果指標 3		歴史館いずみさのの普及啓発事業の参加者数					
項目	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28計画
目標値	717.0	788.7	867.6	954.4	1,049.8	1,154.8	1,269.0
実績値	717.0	1,105.0	1,099.0	1,264.0	1,113.0		
達成度	100.0	140.1	126.67	132.43	106.02		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市民の持つ歴史や文化に関するニーズに応えるため、さまざまなテーマに基づいた、普及啓発活動を行っているが、その参加者数を把握することによって、歴史資料や郷土資料の活用が図られているかどうかという指標となるため（特別展講演会+古文書講座+日根荘講座+絵図ウオーカー+日本神話講座+いずみさの検定）。		めざそう値の設定年度である平成22年度を基準値として、そこから毎年10パーセントの増加を目標としたため。平成30年度に1537.0人を見込んでいる。		平成25年度より、普及事業の体系を変えた。平成24年度まで行っていた「いずみさの歴史セミナー」（9回）と「土曜れきし館」（8回）を廃止。かわりに「特別展関連講座」（2回）と「体験講座」（2～3回）に変更した。「日根荘講座」・「古文書講座」・「絵図ウオーカー」・「日本神話講座」については、引き続き行っている。こちら、無料化による利用者の一巡があるとみられる。			
④ 成果指標 4		歴史館いずみさのの利用者満足度					
項目	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28計画
目標値	75.0	75.5	80.0	80.5	90.0	90.0	90.0
実績値	75.0	79.7	87.9	85.4	82.0		
達成度	100.0	105.56	109.87	106.08	91.11		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市民の郷土の歴史及び文化に対する関心を高めるために行っている各種事業についてのアンケート調査により、利用者の満足度を把握することで、歴史館いずみさののより一層の活用を図る指標となるため。		かつてはめざそう値の設定年度である平成22年度を75パーセントとして、そこから毎年0.5パーセントの上昇を目標としていたが、平成24年度の達成度109.87、平成25年度の達成度106.08をもとに、平成26年度の目標値の88.0%を新たな基準値として、再度見直しの設定を行い、さらに平成30年度まで90%を目指す。		無料化による利用者の一巡があるとみられ、内容がややマンネリ化しているきらいがある。新たなメニューの開発などが求められているとみられる。			
⑤ 成果指標 5		出前授業などの館外・館内における普及事業への参加者数					
項目	H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画	H28計画
目標値			1,205.0	1,325.5	1,458.1	1,603.9	1,764.0
実績値			1,205.0	1,135.0	983.0		
達成度			100.0	85.62	67.41		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
歴史館いずみさのでは、小中学校に対する出前授業や、文化関係団体の講座や公民館等の講座、現地見学会などに講師として学芸員を派遣している。これらの普及事業への参加者数も、歴史館いずみさのの利用者とみなされるため。		めざそう値の設定年度である平成24年度の1205人を基準値として、そこから毎年10パーセントの増加を目標としたため。平成30年度に2134.7人を見込んでいる。		無料化による利用者の一巡に加えて、このようなサービスについての情報がいきわたっていない面がある。また、小中学校では、利用のある学校とない学校の差が激しく、出前授業などによる効果を、周知する必要があるとみられる。			

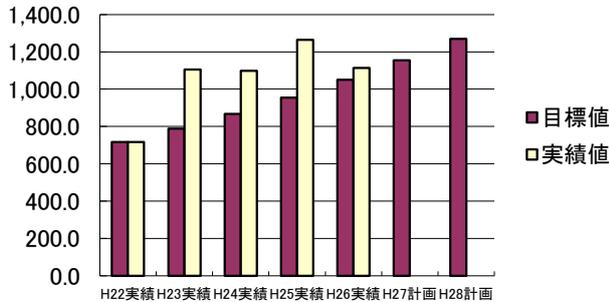
成果指標①



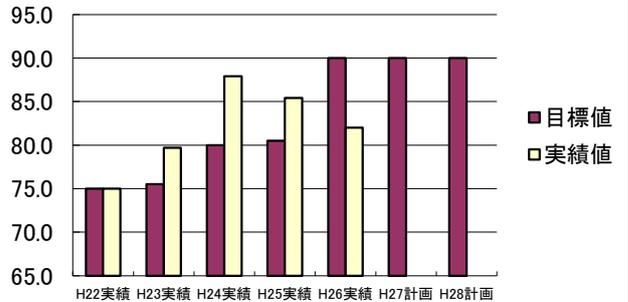
成果指標②



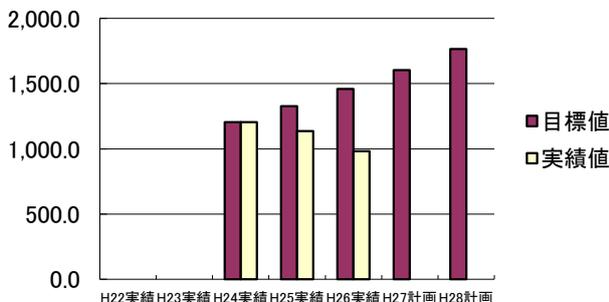
成果指標③



成果指標④



成果指標⑤



6. 施策の事後評価

一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 2	入館料の無料化に伴い、常設展や特別展などの利用者数は大幅な増加をみた。また普及事業についても増加したが、これは、市民が常に新たな学習内容などのサービスを潜在的に求めていることを示しており、より充実し普及啓発に努める必要がある。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 3	博物館施設は、すべての市町村に設けられている施設ではないが(和泉地域で博物館法に基づく博物館施設を設けているのは、堺市・泉大津市・和泉市・岸和田市・泉佐野市の5市)、満足度(偏差値)は80.0と高く、市民ニーズは高い。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 2	平成20年(2008年)に博物館法の改正が行われた。これは平成18年(2006年)に行われた教育基本法の改正をうけて行われたもので、教育基本法に生涯学習の理念についての条文が規定されたことと関連して、学校、家庭、地域など、「社会全体が協力して教育改革に取り組むことが重要」であるとの現状認識に基づいて行われた。その中には、地方公共団体が果たすべき役割が明示されている。
	合計点	(10点中) 7点	
総合評価	B	入館料の無料化に伴う入場者数の変化については沈静化した。歴史館の事業については、引き続き現状維持が望ましい。	

二次評価（政策推進課・行財政管理課による評価）	B	引き続き目標値の達成に努めること。
三次評価（理事者による評価）	B	引き続き目標値の達成に努めること。

7. 施策を構成する事務事業							
事務事業			H26年度決算額			H27年度予算	一次評価
	予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源		
1	01059100	歴史館運営事業	10,183	1,404	1,015	1,335	B
2	01060900	展示・普及啓発事業	10,994	503	428	497	B
3	01061000	調査研究・資料収集管理事業	8,980	352	216	479	B
4	01061700	文化財施設管理事業	1,958	2,341	2,267	2,326	B
合計			32,115	4,600	3,926	4,637	